

平成28年11月9日

平成28年度 大阪市教育局「学校教育ICT活用事業」先進的モデル校

大阪市立阿倍野小学校 第1回ICT公開授業

研究主題

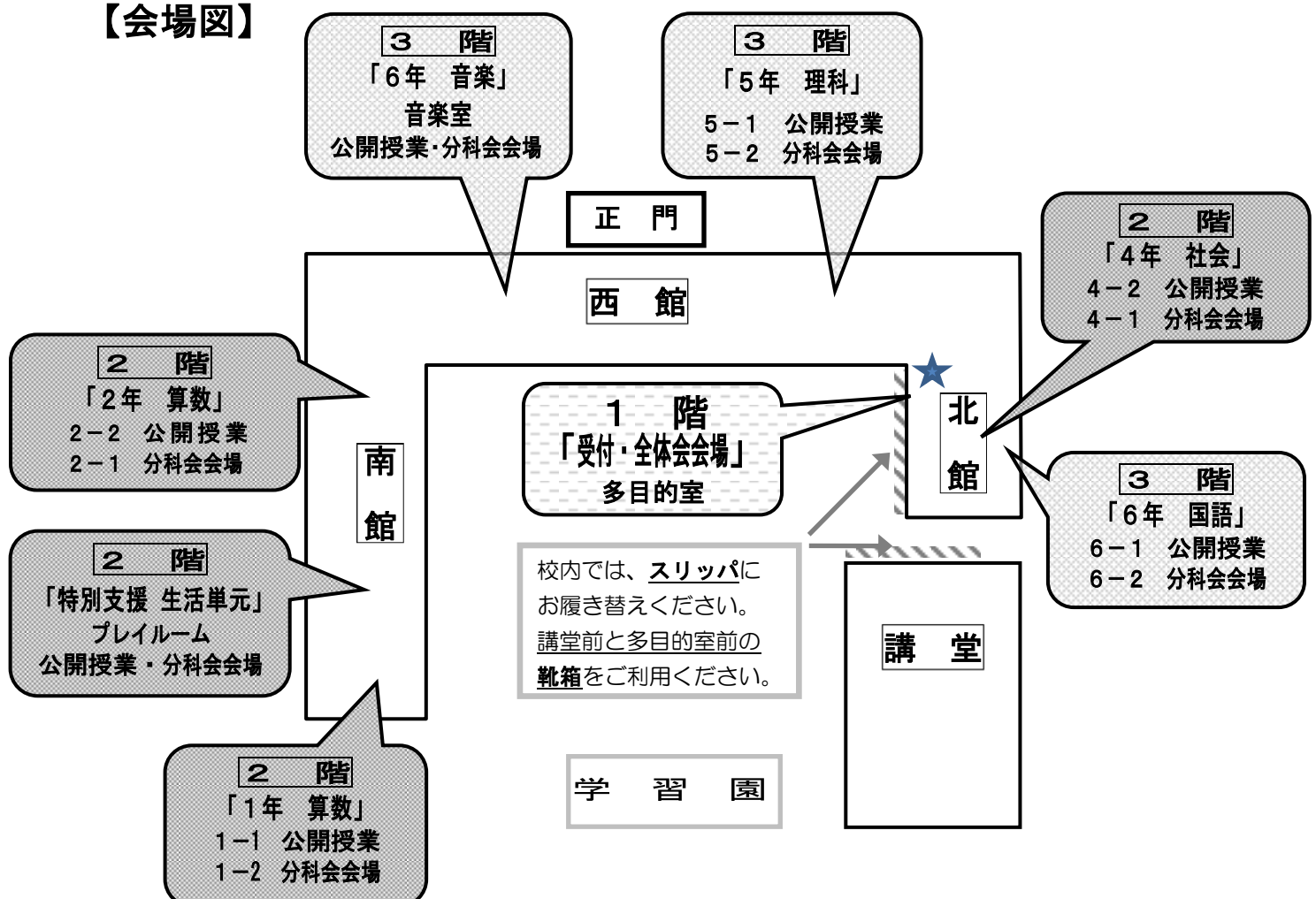
ともに学び合い、学びを深める子どもの育成

ーICTを活用して、コミュニケーション能力の向上を目指すー

【時 程】

1:20	1:40	2:00	2:45	3:00	4:00	4:10	5:00
受付 (多目的室)	全体会Ⅰ (多目的室) 公開授業のポイント	移動	ICT公開授業 (各教室)	移動休憩	分科会 (各教室) ・本日のICT活用のポイント説明 ・質疑応答 ・実技研修	移動休憩	全体会Ⅱ (多目的室) ・本年度の研究の重点 ・研究エピソード ・指導助言

【会場図】



参観者の皆さまへ

本日は、本校の公開授業にお越しいただき、ありがとうございます。

参観にあたって、次の点にご留意ください。

1. 授業も含めて、**校内の写真撮影・ビデオ撮影**は、次の点、お守りいただくことを前提に許可します。
 - 子どもの顔は、なるべく撮らないこと。
 - フラッシュは使用しないこと。
 - 撮影した写真や動画は、個人または、所属する機関での研究目的にのみ使用すること。
 - 子どもや教職員が特定できる写真や動画を、ネット上にアップしないこと（これについては、いかなる理由があっても許可できません）。
 - 授業風景を動画配信サイトなどにアップしないこと（教室内の作品についても、個人が特定される原因となりますので、同じ扱いとさせていただきます）。

※ 撮影された被写体に係る肖像権に関しては、本人並びに本校に属しております。注意事項に反し、または非社会的な目的に利用された場合は、法的な手段により取り下げを要求します。
2. 授業中にむやみに子どもに接近するなど、子どもの注意力を阻害するような行動はお控えください。
3. 教室入口付近に固まらず、奥にお進みください。
4. 携帯電話、スマートフォンはマナーモードにしてください。
また、**「Bluetooth」「Wi-Fi」機能をオフ**にしてください。
5. 授業中、ICT 機器などが動作不良になった場合、指導者の判断で使用を中止し、授業をすすめる等もありますので、ご理解ください。
6. 休み時間等では、子ども達の動線にお心遣いください。

ようこそ 阿倍野小学校 ICT 公開授業へ

初霜の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動に何かとご理解・ご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、本校では、「ともに学び合い、学びを深める子どもの育成」を研究主題に、ICT 機器を活用した教育活動の実践に取り組んでおります。

本日、今年度第 1 回公開授業（通算 9 回目）を開催しましたところ、ご参会いただきありがとうございます。ここに謹んでお礼申し上げます。ICT 活用と指導の更なる充実を図るべく、皆様からご教示いただいたことを生かしまして、さらに研究を積み重ねていく所存でございます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大阪市立阿倍野小学校長 吉田 恵美子

【全体会Ⅰ】（1：40～ 於：多目的室） オリエンテーション。公開授業のポイントを紹介します。

【公開授業】（2：00～2：45）

主な活用機器 **電子黒板** **タブレット端末**

場 所	教科等	単元・内容	授 業 者	ICT 活用の場面	活用コンテンツ
1 年 1 組	算 数	どんなけいさんになるかな	生田 一恵	■導入 ■展開 ■まとめ	デジピクチャーキッズ2 「発表ノート」
2 年 2 組	算 数	かけ算（2）	大脇 忠浩	■導入 ■展開 ■まとめ	「発表ノート」
4 年 2 組	社 会	大阪府の特色ある地域の人々	酒井 航	□導入 ■展開 □まとめ	PowerPoint
5 年 1 組	理 科	雲と天気の変化	別所 英文	■導入 ■展開 ■まとめ	OneNote 「発表ノート」
6 年 1 組	国 語	物語を作ろう	木村 拓也	■導入 ■展開 ■まとめ	「発表ノート」
6 年 2 組	音 楽	曲想を味わおう	吉井亜紀子	■導入 ■展開 □まとめ	「発表ノート」
なかよし	特別支援 生活単元	買ってワクワク 売ってドキドキ	河野悦子・黄本幸 天野健太郎	■導入 ■展開 ■まとめ	PowerPoint

【分 科 会】（3：00 ～4:00）

分 科 会	会 場	内 容		
1 年算数	1 年 2 組	・ 本日の ICT 活用の ポイント説明 ・ 質疑応答	実 技 研 修	デジピクチャーキッズ 2
2 年算数	2 年 1 組			「発表ノート」
4 年社会	4 年 1 組			PowerPoint
5 年理科	5 年 2 組			OneNote
6 年国語	6 年 2 組			「発表ノート」
6 年音楽	音楽室			「発表ノート」
特別支援	プレイルーム			PowerPoint

【全体会Ⅱ】（4：10～5：00 於：多目的室）

- 報 告（本校教員）
 - ・ これまでの研究の流れと本年度の研究の重点
 - ・ 研究エピソード
- 指導助言 大阪教育大学教授 木原 俊行 先生

研 究 の 概 要

1. 研究主題と設定理由

ともに学び合い、学びを深める子どもの育成 ー ICT を活用して、コミュニケーション能力の向上を目指す ー

本校は、平成 24 年 12 月より、大阪市教育局「学校教育 ICT 活用事業」モデル校の指定を、平成 27 年 12 月より、同事業、先進的モデル校の指定を受け、ICT 活用についての研究に取り組んでいます。

本市の目指すところは、「ICT を活用した、協働学習や個別学習などの充実」であり、このことは、OECD におけるキー・コンピテンシーとして挙げられている

- ① 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力（個人と社会との相互関係）
- ② 多様な社会グループにおける人間関係形成能力（自己と他者との相互関係）
- ③ 自律的に行動する能力（個人の自律性と主体性）

の内、①と②の能力に深く関わる場所です。

これを受け、本校では、これまでに、次のような研究主題を設定し、授業実践を中心に研究をすすめ、その成果を公開してきました。

- ・平成 25・26 年度 「ともに学び合い、学びを深める子どもの育成」 （公開 6 回）
ー ICT を活用して、教育の質を高めよう ー
- ・平成 27 年度 「ともに学び合い、学びを深める子どもの育成」 （公開 2 回）
ー ICT を活用して、コミュニケーション能力の向上を目指す ー

これまでの研究では、日々の授業での、「あたりまえのツール」としての ICT の活用のあり方について（第 4 回の公開からは、「基本使い」と「応用使い」という授業における 2 つの ICT 活用パターンを意識しながら）、特に、「問題解決の学習過程」、「協働的な学びの場」における効果的な活用という視点で実践をすすめてきました。

ICT 機器を使った授業について、子どもたちは、「楽しい」「進んで学習できた」「学習に集中できた」「もっと調べたい」（関心・意欲）、「学習したことがよくわかった」「うまく使えるようになった」（知識・理解、技能）、「自分の考えをまとめて伝えることができた」「友達の考えや意見を聞いて、自分の考えを深めることができた」（思考・表現）などの思いをもっています。

これまでの研究を通して明らかになってきたことは、次のようなことです。

- 授業の導入における ICT の活用により、児童の疑問や驚きなどから、主体的な「学習のめあて」設定につながり、解決に向けての関心や意欲をより高めることができる。
- 授業の展開における ICT の活用により、児童の思考の可視化や活動の効率化を図ることができる。
- 授業のまとめにおける ICT の活用した協働的な学びの場を設定することにより、「友達に考えを伝えること」「友達の考えを知ること」についての意欲を高め、また、学習の中で様々な

協働的な学びの場を経験することにより、学び合いの技能も高まり、コミュニケーション能力を高めることができる。

研究の成果として、実践を通して、児童の ICT 活用についての能力も高まり、協働的な学びの場についても充実したものになってきたことが挙げられます。しかしながら、一人一人の学び方の差、学習内容についての理解の差があることや、協働的な学習の場においてリードされるままの児童がいる現状は否めないところです。

そこで、本年度は、研究主題は昨年度と同様に、研究の視点を①「問題解決の学習過程における ICT の効果的な活用」、②「協働的な学びを生み、一人一人の学びを確かにする ICT の活用」、③「情報活用能力の育成」として、授業実践を中心に研究をすすめることにしました。

2. 研究の視点と基本的な考え方 ※ICT 活用に関する本校の基本スタンス、教科の目標・内容

＜視点 1＞ 問題解決の学習過程における効果的な ICT の活用

子どもの主体的な学びを実現するために、単元構成や授業の流れについては、問題解決の学習過程を基本とする。基本的な流れは、導入:「めあての設定、解決に向けた計画・見通し」⇒展開:「めあてについての追究、考えの整理」⇒まとめ:「学習のまとめ、学習内容の活用」の3段階を基本的な流れとする。

この問題解決の過程において、「どの段階」で「どんな力」をつけさせたいかを考え、そのために有効な ICT の活用方法について、今までの研究成果を活かして探究する。

＜視点 2＞ 協働的な学びを生み、一人一人の学びを確かにする ICT の活用

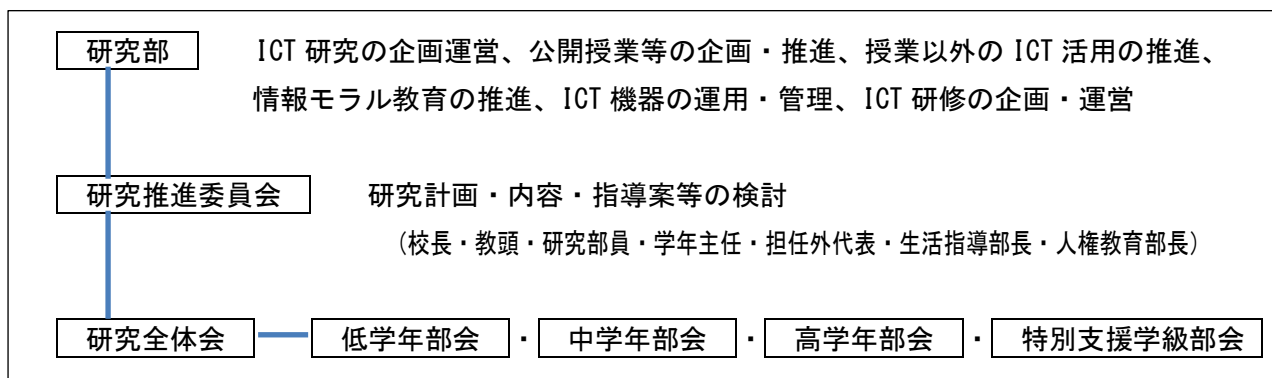
子どもが協働的に学びを展開するためには、思考の可視化や伝達の効率化等が有効であると考えられる。個々の考えが可視化できれば、個々の考えの比較が容易にできる。また、自分の考えを容易に表現でき、伝達が効率化できれば、話し合い活動の深化・充実が図れる。

このように、子どもが協働で学びを展開する際のツールとしての有効な ICT の活用方法について、これまでの研究成果を活かして探究する。

＜視点 3＞ 情報活用能力の育成

ICT の活用は、教科のねらいを達成するためだけでなく、情報能力活用を身に付けさせることのできる学習活動としての役割をもつ。「初等中等教育の情報教育に係る学習活動の具体的展開について」（平成 18 年 8 月）に挙げられている「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の 3 観点から、これまでの実践を見直すとともに、情報活用能力をどのようにすれば高めることができるのか、授業実践を通してさらに探究する。

3. 研究組織



[illegible]

第1学年 算数科 学習指導案

授業者 生田 一恵

《本時のICTの活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 ■個別学習
ICT活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する ■学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 □その他(書画カメラ)
活用コンテンツ等	○ SKYMENU Class (発表ノート)
ICT活用のポイント	○ 前時に、デジピクチャーキッズ2で作成し、発表ノートに取り込んだ たし算やひき算の問題画像や解答画像を、本時では、SKYMENUのグルー プ機能を活用することにより、一度に共有し、友だちと問題を解き合ったり、 答え合わせをし合ったりすることができるようにする。

1 学年・組 第1学年1組 計35名

2 場 所 1年1組教室

3 単 元 名 「どんなけいさんに なるのかな」

4 目 標

○ 加法や減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。

5 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技 能	数量や図形についての 知識・理解
加法及び減法の式に表したり、式を読み取ったりすることに親しみをもっている。	加法及び減法が用いられる場面を、具体物や図などを用いて考え、式に表している。 加法及び減法の式を、具体的な場面に結び付けて捉えている。	加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。	合併や増加、求残や求差など、加法及び減法の意味について理解している。 式に表したり、式を読み取ったりすることを通して、加法及び減法が用いられる場面の数量の関係について理解している。

6 指導計画（全3時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1 2	<ul style="list-style-type: none"> 提示した問題を読み、不足している言葉や数を考え、問題文を完成させる。 問題を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板に問題を提示し、さらに児童のタブレット端末に配付することで、提示した問題が見やすく、友だちと共有、考えることができるようにする。 デジピクチャーキッズ2を活用することにより、意欲的に作成できるようにするとともに、考えた問題場面を容易に視覚的な表現にできるようにする。また、再考する際、問題場面を簡単に作りかえることができるようにする。

1		<ul style="list-style-type: none"> 問題ノート、解答ノートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> デジピクチャーキッズ2で作成した画像と問題文の2枚のカードを、見やすくする。
	3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 作った問題を共有し、それぞれの問題を解く。 どのような問題の時に、たし算やひき算になるか、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> SKYMENU（発表ノート）でグループ機能を活用することにより、友だちの問題を共有し、解くことができるようにする。 子どもの問題を電子黒板に提示することにより、学級全体で振り返りをしやすくする。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 加法や減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T 活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を振り返る。 ・前時を振り返り、本時の学習課題を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に作成した子どもの問題を電子黒板に提示することにより、前時の学習の振り返りをしやすくする。 	電子黒板 タブレット端末 (指)	【関心・意欲・態度】 ・前時を振り返りながら、本時の学習課題をつかみ、関心をもつ。 (行動観察)
	つくったもんだいを とう			
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共有した問題を解き合う。 ・式に表し、答えを求め、ノートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SKYMENU（発表ノート）のグループ機能を活用することにより、問題を集め、共有できるようにする。 ・ノートを電子黒板に提示し、書き方を指示することにより、わかりやすくする。 	タブレット端末 (児) . ・SKYMENU (発表ノート、グループ機能)	【技能】 ・適切な立式をして、問題を解決することができる。 (行動観察・発言、ノート)
	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ化した解答を見て、解いた問題の答えを確認する。 ・答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SKYMENU（発表ノート）のグループ機能を活用することにより、答えの確認をしやすくする。 	タブレット端末 (児) ・SKYMENU (発表ノート、グループ機能)	
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のまとめをする。 ・どのような時にたし算やひき算になるか、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの問題を電子黒板に提示することにより、振り返りをしやすくする。加法や減法になる時の言葉や具体的な操作と結び付けてまとめることができる。 	電子黒板 タブレット端末 (指)	【知識・理解】 ・合併や増加、求残や求差など、加法及び減法の意味について理解している。 (発言・ノート) 【数学的な考え方】 ・加法及び減法が用いられる場面を考え、言葉で表現することができる。 (ノート)
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 違う場面の問題作りをする。 ・文だけで問題を作る。 (ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末にあるこれまでに作成された問題を見て振り返ることにより、次の問題作りの参考にできるようにする。 	タブレット端末 (児)	

(3) 板書計画

電子黒板

	投影内容
導 入	前時に作成した子どもの問題
展 開	ノートの書き方
まとめ	まとめに適した子どもの問題

つくったもんだいを ところ

- ㊦ みんなで、あわせて たしざん
- ㊩ ちがいは ひきざん
- ㊵ くと たしざん
- ㊶ のこりは ひきざん

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings present.

第2学年 算数科 学習指導案

授業者 大脇 忠浩

《本時のICTの活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 □その他(書画カメラ)
活用コンテンツ等	○ SKYMENU Class (発表ノート)
ICT活用のポイント	○ SKYMENUの発表ノートにマーキングすることで、考え方を視覚的にわかりやすく整理し、数のまとまりをとらえられるようにする。 ○ SKYMENUの発表ノートのグループ機能を活用し、たくさんの友だちの考え方に触れることで、多様な解決方法に気づかせるようにする。 ○ 電子黒板上に子どもの考え方を提示することで、説明に応じて加筆できるようにし、解決方法の理解につなげられるようにする。

1 学年・組 第2学年2組 計32名

2 場 所 2年2組教室

3 単 元 名 「かけ算(2)」

4 目 標

○ 乗法の意味について理解を深め、それを用いることができる。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技 能	知識・理解
乗法について成り立つ性質やきまりを用いることのよさに気づき、乗法九九の構成や計算の仕方を考えることに活用しようとする。	乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現することができる。	乗法九九(6、7、8、9、1の段)を構成し、確実に唱えることができる。	乗法九九について知り、乗法に関して成り立つ性質の理解を確実にする。

6 指導計画(全17時間)

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 6の段の九九の構成の仕方について考える。 累加や乗数と積の関係など既習の考えを活用して、6の段の九九を構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板上にアレイ図を映し出し、式と関係づけて指導を行うことで、分配法則につながる考え方を視覚的に捉えやすくする。
	2	<ul style="list-style-type: none"> 6の段の九九を唱え、カードを使って練習する。 6の段の九九についてアレイ図を基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> フラッシュカードを活用し、全員で乗法九九を唱えられるようにする。

1	3	<ul style="list-style-type: none"> 6の段の九九を用いて問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの考え方をカメラ機能を活用することで、瞬時に見やすく提示することができ、発表の際の手立てとなるようにする。
	4	<ul style="list-style-type: none"> 7の段の九九の構成の仕方について考える。 累加や乗数と積の関係に加え、交換法則など既習の考えを活用して、7の段の九九を構成し、九九表に答えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板上にアレイ図を映し出し、式と関係づけて指導を行うことで、分配法則につながる考え方を視覚的に捉えやすくする。
	5	<ul style="list-style-type: none"> 7の段の九九を唱え、カードを使って練習する。 7の段の九九を見直し、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> フラッシュカードを活用し、全員で乗法九九を唱えられるようにする。
	6	<ul style="list-style-type: none"> 7の段の九九を用いて問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの考え方を、カメラ機能を活用することで、瞬時に見やすく提示することができ、発表の際の手立てとなるようにする。
2	7	<ul style="list-style-type: none"> 8の段の九九の構成の仕方について考える。 既習の性質やきまりを活用して、いろいろな方法で8の段の九九を構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> アレイ図を SKYMENU の発表ノートに整理し、気づいたことをマーキングすることで、分配法則や交換法則の理解を深められるようにする。
	8	<ul style="list-style-type: none"> 8の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。 8の段の九九を用いて問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> フラッシュカードを活用し、全員で乗法九九を唱えられるようにする。 子どもの考え方をカメラ機能を活用することで、瞬時に見やすく提示することができ、発表の際の手立てとなるようにする。
	9	<ul style="list-style-type: none"> 9の段の九九の構成の仕方について考える。 既習の性質やきまりを活用して、いろいろな方法で9の段の九九を構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> アレイ図を SKYMENU の発表ノートに整理し、気づいたことをマーキングすることで、分配法則や交換法則の理解を深められるようにする。
	10	<ul style="list-style-type: none"> 9の段の九九を唱え、カードなどを使って練習する。 9の段の九九を用いて問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> フラッシュカードを活用し、全員で乗法九九を唱えられるようにする。 子どもの考え方をカメラ機能を活用することで、瞬時に見やすく提示することができ、発表の際の手立てとなるようにする。
	11	<ul style="list-style-type: none"> 1の段の九九を構成し、乗法九九の意味を確かめる。 1の段の唱え方を練習する。 九九を、答えの大きい方から唱えたり、途中から唱えたり、交互に唱えたりする活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> フラッシュカード機能を活用し、全員で乗法九九を唱えられるようにする。
3	12	<ul style="list-style-type: none"> 2cmの3倍の長さを、乗法を使って求める。 ㊸、㊹のテープの図を見て、㊹のテープは㊸のテープの何倍かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書で長さを比較することで、長さが何倍であるかを視覚的に捉えやすいようにする。
4	13	<ul style="list-style-type: none"> 九九表を見て、これまでの九九の構成で用いた乗数と積の関係や、乗法の交換法則を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 九九表を SKYMENU の発表ノートに整理し、気づいたことをマーキングすることで、分配法則や交換法則の理解を深められるようにする。
	14	<ul style="list-style-type: none"> 九九表を基に、学習してきた性質やきまりを用いて、被乗数が2位数の乗法について答えの求め方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの考え方をカメラ機能を活用することで、瞬時に見やすく提示することができ、発表の際の手立てとなるようにする。

5	15 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・チョコレートの数のいろいろな求め方を、図をもとに考える。 ・それぞれの考えを発表し、検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SKYMENUの発表ノートにマーキングすることで、考え方を視覚的にわかりやすく整理し、数のまとまりをとらえられるようにする。 ・SKYMENUの発表ノートのグループ機能を活用し、たくさんの友だちの考え方にふれることで、多様な解決方法に気づかせるようにする。 ・電子黒板上に子どもの考え方を提示することで、説明に応じて加筆できるようにし、解決方法の理解につなげられるようにする。
6	16 ・ 17	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの考え方をカメラ機能を活用することで、瞬時に見やすく提示することができ、発表の際の手立てとなるようにする。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 乗法九九を総合的に活用して、問題を解決することを通して、九九の理解を深めることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題場面と出会う。 ・はこの中のチョコレートの数を求めるという問題場面に出会う。 ○ 本時の学習課題に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場면을電子黒板上で大きく提示することで、視覚的にとらえやすくする。 	電子黒板 タブレット端末（指） ・SKYMENU	
	チョコレートの数のもともめ方を考えよう			
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 求め方の見通しをもつ。 ・一つ分のまとまりをつくって考える。 ・かけ算で計算する。 ○ 求め方を考える。 ・求め方について自分の考えをノートに書く。 ○ 自分の考えを友だちに説明する。 ・タブレット端末を活用し、ペアで自分の考えを説明し合う。 ○ クラス全員の考え方を閲覧し、その求め方を推測する。 ・クラス全員の考え方をタブレット端末上で閲覧し、その求め方や、気づいたことについてペアで話し合う。 ○ チョコレートの数の求め方について全体で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ノートにマーキングすることで、考え方を視覚的にわかりやすく整理し、数のまとまりをとらえられるようにする。 ・発表ノートのグループ機能を活用し、たくさんの友だちの考え方に触れることで、多様な解決方法に気づかせる。 ・電子黒板上に子どもの考え方を提示することで、説明に応じて加筆できるようにし、解決方法の理解につなげられるようにする。 	タブレット端末（児） ・SKYMENU タブレット端末（児） ・SKYMENU 電子黒板 タブレット端末（指・児） ・SKYMENU	【数学的な考え方】 ・数の求め方を、乗法を用いて解決できるように工夫して考えている。 （行動観察・ノート・タブレット端末） 【関心・意欲・態度】 ・他の求め方について関心を持ち、ペアで話し合っている。（行動観察） 【数学的な考え方】 ・図や式から、数の求め方を説明している。（発言）

まとめ	○ 話し合ったことをまとめる。 ○ 練習問題に取り組む。 ・学習したことをもとに、練習問題に取り組む。	・問題場面を電子黒板上で大きく提示することで、視覚的にとらえやすくする。	電子黒板 タブレット端末（指）	【数学的な考え方】 ・数の求め方を、乗法を用いて解決できるように工夫して考えている。（ノート）
-----	---	--------------------------------------	--------------------	--

（３）板書計画

④チョコレートの数のまとめ方を考えよう

電子黒板

	投影内容
導 入	チョコレートの図
展 開	チョコレートの図 (子どもの考え)
まとめ	練習問題

⑤ はこの中のチョコレートは、ぜんぶで何こありますか。

⑥ ・一つ分のまとまりをつくって考える。
・かけ算

⑦ くふうして同じ数のまとまりをつくると、かけ算でもとめられる。

第4学年 社会科 学習指導案

授業者 酒井 航

《本時のICTの活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT活用の場面	□導入 ■展開 □まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 □その他
活用コンテンツ等	○ PowerPoint
ICT活用のポイント	○ インターネットや動画ファイルで調べたことをPowerPointで分類することで、堺市の包丁を守るための取り組みについて分かったことを視覚的に伝えることができるようにする。

1 学年・組 第4学年2組 計30名

2 場 所 4年2組教室

3 単 元 名 「大阪府の特色ある地域の人びとの暮らし～包丁づくりがさかんな堺市～」

4 目 標

- 包丁づくりが盛んである堺市とそこに見られる人びとの生活の特色について、地図帳や写真、インターネットなどを活用して調べることができる。
- 堺市の人びとが互いに協力して、堺の包丁の保護と発展に努めていることについて考えることができるようにする。
- 大阪府に対する誇りと愛情をもつ。

5 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
堺の包丁について関心を持ち、それを意欲的に調べている。 堺の包丁の特色やよさへの理解に基づいて、自分たちの住んでいる大阪府に対する誇りと愛情をもつ。	堺の包丁について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 堺市の人びとが互いに協力して堺の包丁の保護と発展に努めていることについて考え、適切に表現している。	地図帳や写真、インターネットなどを活用して、堺の包丁についての情報を集め、読みとっている。 調べたことや分かったことをノートや観光ガイドマップにまとめている。	堺の包丁づくりに関わる人びとの暮らしを理解している。 堺市の人びとが互いに協力して、堺の包丁の保護と発展に努めていることを理解している。

6 指導計画（全8時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T 活 用 の ポ イ ン ト
1	1	・堺と関（岐阜県）の包丁の違いについて話し合い、堺や関の包丁の特徴について調べる。	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板に大阪府や岐阜県の地図を提示することで、堺市や関市の位置を確認できるようにする。 NHK for School や動画ファイルを視聴することで追究意欲を高めるようにする。
	2	・堺や関の包丁について今後学習していきたいことを考え、学習計画を立てる。	
2	3	・堺と関の包丁の作り方について調べる際の視点を話し合い、それをもとに調べる。	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用し動画ファイルを視聴することで、製作過程を視覚的に捉えることができるようにする。 SKYMENU で画面保存し、気づいたことや思ったことをマーキングした画像を発表ノートにまとめることで、堺と関の包丁の違いを具体的に話し合うことができるようにする。
	4	<ul style="list-style-type: none"> 堺と関の包丁の作り方の違いについて話し合う。 堺と関の包丁を買う人が多い理由を考える。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> 堺と関の包丁を守るための取り組みについて話し合う。 堺や関がそれぞれ包丁を守るためにどのような取り組みを行っているか予想し、共通点や相違点を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板に2市の「刃物まつり」の画像を提示することで、堺市、関市で似ている取り組みが行われていることに気づくことができるようにする。 調べた資料を SKYMENU で画面保存し、気づいたことや思ったことをマーキングすることで、堺市と関市の取り組みの共通点や相違点を具体的に話し合うことができるようにする。 インターネットや動画ファイルで調べたことを PowerPoint で分類することによって、堺や関の包丁を守るための取り組みについて分かったことを視覚的に伝えることができる。
	6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 堺市、関市の取り組みについて共通点や相違点について調べる 包丁づくりに関わる人びとの思いを考える。 	
	7	<ul style="list-style-type: none"> 「堺観光ボランティア協会」の活動や目的を調べ、自分たちが堺市の良さを伝える方法を考える。 堺市の包丁を応援するために、堺市の特色やよさを振り返り、「大阪府デジタル観光ガイドマップ」を作成する。 	
	8		
3			<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板に「堺観光ボランティア協会」の Web ページを提示することで、課題をつかむことができるようにする。 電子黒板に基本のレイアウトを提示することで、堺市の特色やよさを伝えるための見出しや資料などについて考えることができるようにする。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 堺市や関市の包丁づくりに関わる人々が行っている取り組みについて、調べたことを分類し、その思いを考えることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T 活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を振り返る。 ・ 前時の話し合い活動を想起し、本時の学習問題を確認める。 			<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習問題に関心をもち、意欲的に追究している。 <p>(行動観察・発言)</p>
	堺市や関市の包丁づくりに関わる人々は、どんな思いで取り組みをしているのだろう			
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 堺市、関市の取り組みや包丁づくりに関わる人々の思いについて共通点や相違点を調べる。 ・ グループで、堺市、関市の取り組みについて調べたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 堺市、関市の包丁づくりに関わる人々の思いについて考える。 ・ 資料を活用し、包丁づくりに関わる人々の思いについてグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像にまとめた資料を具体的に話し合うことができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を分類することで、堺市、関市の包丁づくりに関わる人々の思いについて考えることができるようにする。 ・ どのように分類をしたか電子黒板に提示することで、具体的に話し合うことができるようにする。 	<p>電子黒板 タブレット端末（指）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PowerPoint タブレット端末（児） ・ PowerPoint 電子黒板 タブレット端末（指） 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べた取り組みについて気づいたことを資料をもとにわかりやすく説明している。 <p>(行動観察・発言)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 包丁づくりに関わる人々の思いを考えている。 <p>(ノート・発言)</p>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習を振り返る。 ・ 堺市、関市で包丁づくりに関わる人々がどんな思いで取り組みをしているか、まとめる。 			<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 包丁づくりに関わる人々が互いに協力して、包丁づくりを守ろうとしていることを考え、適切に表現している。 <p>(ノート・発言)</p>

(3) 板書計画

堺市や関市では包丁づくりに関わる人々が、どんな思いで取り組みをしているのだろう

電子黒板

	投影内容
導 入	
展 開	取り組みを分類する方法や調べたこと
まとめ	

⑤

- 包丁りの伝統を残したい。
- 職人を増やしたい。
- 売り上げをのばしたい。
- 堺市、関市で協力して、今よりも日本や世界に包丁を広めたい。
- 堺市や関市をもち上げたい。

⑥堺市や関市では、包丁づくりに関わる人々が、たくさんの人に包丁の良さを伝え、発展させるために協力して取り組みをしている。

第5学年 理科 学習指導案

授業者 別所 英文

《本時のICTの活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 □その他（ 書画カメラ ）
活用コンテンツ等	○ OneNote ○ SKYMENU Class（発表ノート）
ICT活用のポイント	○ まとめたデータを発表ノートに取り込み、マーキングすることで、グループの全員が視覚的に天気の変化をとらえられるようにする。 ○ 各地方の結果を(OneNote)にして提示することで、一般的な天気の変化をとらえられるようにする。

1 学年・組 第5学年1組 計25名

2 場 所 5年1組教室

3 単 元 名 「雲と天気の変化」

4 目 標

- 興味・関心を持って1日の雲のようすを観察することを通して、雲の量や動きは天気の変化と関係があることを捉えることができる。
- インターネットを活用して数日間の天気の様子を調べることを通して、天気はおよそ西から東へ変化していくという規則性をとらえ、天気の変化は、映像などの気象情報などを使って予想することができるという考えを持つことができる。

5 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
天気の変化などの気象情報に興味・関心を持ち、自ら雲の量や動きを観測したり、気象情報を収集したりして天気を予想しようとしている。 雲の様子や気象情報をもとにした天気の予想を日常生活で活用しようとしている。	天気の変化と雲の量や動きなどの関係について予想や仮説を持ち、条件に着目して観察を計画し、表現している。 天気の変化と雲の量や動きなどを関連づけて考察し、自分の考えを表現している。	雲の様子を観察するなど天気の変化を調べる工夫をし、気象衛星やインターネットなどを活用して計画的に情報を収集している。 雲の動きなどを観測し、その過程や結果を記録している。	雲の量や動きは、天気の変化と関係があることについて理解している。 天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できることを理解している。

6 指導計画（全9時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T 活 用 の ポ イ ン ト
1	1	<ul style="list-style-type: none"> • 今までの行事の日の天気を思い出し、晴れの日と雨の日の違いについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> • 春の遠足（雨）、林間学習（晴れ）の写真を比較することで、雲のようすに違いがあることに気づくことができるようにする。
2	2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> • 実際に雲を観察し、雲の特徴について考える。 • 1日の中で、雲と天気の変化について観察方法を考え、観察する。 • 観察した雲の量や動きから雲と天気の関係についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> • NHK for School のクリップから、様々な雲の特徴をとらえることができるようにする。 • 観察と同時に雲の写真を撮っておくことで、結果をまとめやすくする。
3	5 6 7 8 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> • 他の地域の天気の様子や変化を知るための必要な情報を考え、調べる計画を立てる。 • インターネットを活用して、各地域の天気情報を収集し、整理する。 • 整理されたデータから、天気の変化のきまりについてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 実際の天気予報の映像を見ることで、雲の衛星画像や雨雲レーダー、アメダスなどがあることに気づかせる。 • 日本気象協会の Web ページ (tenki.jp) を活用し、各地方の雲の衛星画像、雨雲レーダー、アメダス（降水量）に注目できるようにする。 • 役割を分担して調べることで、大量のデータを短い時間でまとめることができるようにする。 • 各データをデジタルワークシート (OneNote) にまとめることで、雲の動きや降水量の変化が視覚的にわかるようにする。 • まとめたデータを発表ノートに取り込み、マージングすることで、グループの全員が視覚的に天気の変化をとらえられるようにする。 • 各地方の結果を一覧表 (OneNote) にして提示することで、一般的な天気の変化がとらえられるようにする。
4	9	<ul style="list-style-type: none"> • 明日の天気を予想し、実際の天気と比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 日本周辺の雲の動きや雨雲レーダーなどの情報を各自で収集し、まとめることで、自分たちの住む地域の次の日の天気を予想できるようにする。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 整理した各地域の気象データから天気の変化のきまりについて考察し、雲の動きと天気の変化の関係について、まとめることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T 活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 問題を確認する。			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 天気の変化は、雲の動きと関係があるのだろうか </div>			
	○ 前時までに出了予想や調べてきた内容について振り返る。 【予想】 <ul style="list-style-type: none"> ・天気も雲の動きと同じように西から東へ移り変わる。 ・台風の動きのように、南から北へ変わる。 ・突発的に雨が降ることもあるので、決まりはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに調べてきた各地方の雲の画像、雨雲レーダー、アメダス（降水量）の表を電子黒板に提示することで、前時までの活動を思い起こさせる。 	電子黒板 タブレット端末（指） ・OneNote	
展 開	○ グループごとに、自分たちが調べてきた各地方のデータをもとに、雲の動きと天気についての結果をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめた一週間のデータを発表ノートに取り込み、マーキングすることで、グループの全員が視覚的に天気の変化をとらえられるようにする。 	タブレット端末（指） ・OneNote ・発表ノート 電子黒板	【思考・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・観察データを分析し、雲と天気の変化の関係についてまとめている。（グループ活動）
	○ 各グループの結果を全員で確認して、日本の天気の変化について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・各地方の結果を一覧表（OneNote）にして提示することで、一般的な天気の変化をとらえられるようにする。 		
ま と め	○ 天気の変化について、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・天気は、雲の動きと同じように、およそ西から東へ変化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Web ページ上の画像を見ることで、自分たちが調べた天気の変化を全国的にとらえられるようにする。 	電子黒板 タブレット端末（指） 授業用パソコン	【知識・理解】 <ul style="list-style-type: none"> ・天気は雲の動きとともに、西から東に変化することを書いている。（ノート）

(3) 板書計画

問題	天気の変化は、雲の動きと関係があるのだろうか。								
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 電子黒板 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="text-align: center;">投 影 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">導 入</td> <td>各グループのまとめたデジタルワークシート</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">展 開</td> <td>結果一覧表</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ま と め</td> <td>Web ページの画像</td> </tr> </tbody> </table> </div>		投 影 内 容	導 入	各グループのまとめたデジタルワークシート	展 開	結果一覧表	ま と め	Web ページの画像	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 予想 <ul style="list-style-type: none"> ・天気も雲の動きと同じように西から東へ移り変わる。 ・台風の動きのように、南から北へ変わる。 ・突発的に雨が降ることもあるので、決まりはない。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 結論 <p style="margin-top: 10px;">天気は、雲の動きと同じように、およそ西から東へ変化する。</p> </div>
	投 影 内 容								
導 入	各グループのまとめたデジタルワークシート								
展 開	結果一覧表								
ま と め	Web ページの画像								

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

第6学年 国語科 学習指導案

授業者 木村 拓也

《本時のICTの活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 □グループ学習 □個別学習
ICT活用の場面	■導入 ■展開 □まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる ■他者との考えを比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ SKYMENU Class（発表ノート）
ICT活用のポイント	○ 「構成メモ」を発表ノートに取り込むことで共有できるようにする。 ○ 作成した「構成メモ」を共有し、話し合いやすくすることによって協働的に学習を進めることができるようにする。

1 学年・組 第6学年1組 計31名

2 場 所 6年1組教室

3 単 元 名 「物語を作ろう」

4 目 標

○ 構成を考え、想像したことが伝わるように表現を工夫して、物語を書くことができる。

5 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
経験したことや想像したことをもとに、楽しんで物語を書こうとしている。 自分の思いや考えを表現するのにふさわしい題材や叙述を見いだしながら、物語を書こうとしている。	写真から想像を広げ、書く事柄を考え、考えた事柄を整理している。 想像したことを明確に表現できる、筋道の通った物語の構成を考えている。 事実と感想、意見とを区別し、目的や意図に応じて表現を工夫して書いている。	物語を書くことを通して、表現の工夫に気づいている。

6 指導計画（全7時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1 2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 4枚の写真から1枚を選び、選んだ写真をもとに想像を広げる。 物語の題名や「時」「場所」「人物」等を考え、「構成メモ」を書く。 作成した「構成メモ」を見せ合い、筋道の通った物語の構成になっているか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 4枚の写真を電子黒板で提示し、想像を広げられるようにする。 「構成メモ」を発表ノートに取り込むことで共有できるようにする。 作成した「構成メモ」を共有し、話し合いやすくすることによって協働的に学習を進めていくことができるようにする。
2	3 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子や、人物の気持ちを表すためにはどのような表現を用いたらよいかを考える。 「構成メモ」をもとに、表現を工夫して物語を書く。 文章を推敲する。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用し、友達が作った物語を調べ、どのような表現の工夫があるか参考にできるようにする。
3	7	<ul style="list-style-type: none"> よいところに着目して助言や感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板に子どもの考えを提示することで、クラス全体で共有できるようにする。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 物語の「時」「場所」「人物」やどのような出来事が起きるかについて考え、考えた事柄を整理して、筋道の通った物語の構成を考えることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 学習課題を確認する。			
	友だちの意見を聞いて「構成メモ」仕上げよう	<ul style="list-style-type: none"> 4枚の写真を電子黒板で提示し、想像を広げられるようにする。 	電子黒板 授業用パソコン	
展 開	○ 物語の構成を考え、「構成メモ」を書く。 ・筋道の通った物語を書くために、「設定」「展開」「山場」「結末」の場面を考え、物語の題名や「時」「場所」「人物」などとともに「構成メモ」に整理する。	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板に「構成メモ」の例を提示することで、学習活動のイメージを持つことができるようにする。 	電子黒板 タブレット端末（指）	【書く能力】 ・想像を広げて書く事柄を考え、「構成メモ」を書いている。 (ワークシート)
	○ 作成した「構成メモ」を子ども同士で交流し合う。 ・友だちが作った「構成メモ」を見て物語のあらすじを予想する。 ・「構成メモ」を見て、よく	<ul style="list-style-type: none"> 「構成メモ」を発表ノートに取り込むことで共有できるようにする。 「構成メモ」を発表ノートに取り込むことで、マーキングをすることができ、良い 	タブレット端末（児） ・発表ノート	【関心・意欲・態度】 ・「構成メモ」から物語を想像し、助言や質問をしている。 (行動観察)

	<p>わからない所などを質問し合うことにより、「構成メモ」を練り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筋道の通った構成になるように助言し合う。 <p>○ 友だちの意見をもとに、「構成メモ」に加筆する。</p>	<p>所や不十分な所が視覚的にとらえられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作成した「構成メモ」を共有し、話し合いやすくすることによって協働的に学習を進めていくことができるようにする。 		
まとめ	○ どのような助言や質問があったか発表する。			

(3) 板書計画

<p>電子黒板</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 80%;">投影内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">導 入</td> <td>4枚の写真</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">展 開</td> <td>「構成メモ」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">まとめ</td> <td>「構成メモ」</td> </tr> </tbody> </table>		投影内容	導 入	4枚の写真	展 開	「構成メモ」	まとめ	「構成メモ」	<div style="display: flex; flex-direction: row-reverse; align-items: center; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: right; width: 40%;"> <p>物語を作ろう</p> <p>友だちの意見を聞いて 「構成メモ」仕上げよう</p> </div> <div style="text-align: right; width: 40%;"> <p>物語の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定…時、場所、登場人物 ・ 展開…山場へ向かう ・ 山場…物語で一番盛り上がる 気持ちの変化 ・ 結末…山場のその後 </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <p>「時」の設定 「場所」の設定 「人物」の設定</p> <p>山場では大きな変化が必要</p> </div>
	投影内容								
導 入	4枚の写真								
展 開	「構成メモ」								
まとめ	「構成メモ」								

[illegible]

第6学年 音楽科 学習指導案

授業者 吉井 亜紀子

《本時のICTの活用について》

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input checked="" type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> 個別学習
ICT活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ
ICT活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT活用の目的	<input type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input type="checkbox"/> 学習の振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input checked="" type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> その他(電子オルガン)
活用コンテンツ等	<input type="checkbox"/> SKYMENU Class (動画比較) <input type="checkbox"/> SKYMENU Class (発表ノート)
ICT活用のポイント	<input type="checkbox"/> 感じ取った音楽の要素を視覚的に捉えられるように記録し、記録したものを比較しながら音楽の要素について考える手立てとさせ、速さや強さ、曲想の変化に気づくことができるようにする。 <input type="checkbox"/> 発表ノートを活用してワークシートに書いた情報を共有できるようにする。

1 学年・組 第6学年2組 計31名

2 場 所 音楽室

3 単 元 名 「曲想を味わおう」

4 目 標

- 曲想にふさわしい表現を工夫し、旋律の特徴や重なり方を活かして歌ったり、パートの役割にふさわしい楽器や演奏の仕方で演奏したりすることができる。
- 曲想とその変化を感じ取りながら、旋律の特徴、反復や変化、強弱や速度などによる楽曲の構造を理解して聴くことができる。

5 単元の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
旋律の特徴や、反復、変化などに興味・関心をもち、曲想の変化を感じ取って聴く活動に主体的に取り組もうとしている。	旋律の特徴や音の重なりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を生かした歌い方を工夫し、どのように歌うかについて、自分の思いや意図を持っている。	速度や旋律の特徴、強弱の変化、重なり合う響きなどに気を付けて、パートの役割に合った楽器を組み合わせ、曲想にふさわしい表現で演奏している。	旋律の反復や変化、強弱や速度の変化を聴き取り、それらが生み出す曲想の移り変わりをを感じ取りながら、楽曲の構造を理解して聴いている。

6 指導計画（全9時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「広い空の下で」の曲の歌詞を読んだり、曲を聴いたりして、曲全体の感じをつかむ。 ・旋律の音の高さの変化に気をつけながら主な旋律を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を電子黒板に提示し、曲の特徴や気をつけて歌いたいところを書き込むことで、歌うときの手立てとなるようにする。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の音の動きやリズム、旋律の重なり方に気を付けて、パートごとに分かれて練習する。 ・互いの歌声を聴き合い、二部合唱をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主な旋律、副次的な旋律の音源をタブレット端末に録音しておくことで、パート練習が容易にできるようにする。 ・合唱の様子を録画することで、自分たちの歌声を振り返ることができるようにする。
2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「ハンガリー舞曲第5番」の曲を、体を動かしながら聴く。 ・旋律の変化を聴き取り、楽曲の構造を確かめる。 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・班で速度や強弱、旋律の変化による曲想の変化について考え、ワークシートにまとめたり、身体表現に表したりする。 ・班で考えた身体表現を記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの旋律を録音しておくことで、くり返し聴くことができるようにする。 ・発表ノートを活用することで、次時にワークシートに書いた内容を共有できるようにする。
	5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の班と他の班の記録を比較しながら、班で作った身体表現をよりよいものにす ・班で考えた身体表現を記録して、前時の記録と比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の班と他の班の記録を共有し比較させることで、身体表現を工夫することができるようにする。 ・前時の記録と比較させることで、工夫したところが分かるようにする。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現の発表会をする。 ・友だちの作った身体表現を見て、気づいたことや感じ取ったことを伝え合うことで曲想を味わう。 	
3	7	<ul style="list-style-type: none"> ・「風を切って」の曲を聴いて、曲全体の感じをつかむ。 ・①と②のパートをリコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・各パートの役割を考えて、それぞれに合った楽器を話し合って決める。 ・自分のパートを演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を電子黒板に提示し、演奏順序を確認し、音楽や演奏の仕方について気づいたことや感じたことを書き込むことで、演奏するときの手立てとなるようにする。 ・各パートの旋律の音源をタブレット端末に録音しておくことで、パート練習が容易にできるようにする。
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に提示した楽譜に考えを書きこみながら、演奏の工夫を話し合う。 ・工夫を生かして表現できるように練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に楽譜を提示し、パートごとの具体的な工夫が全体に分かるようにする。 ・パートで練習したものを録音し、自分たちの演奏を確認することができるようにする。
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を生かした表現で合奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏の様子を録画することで、自分たちの演奏の振り返りができるようにする。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 「ハンガリー舞曲第5番」の曲想をとらえ、班で作った身体表現をよりよいものにすることができるとができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 前時までの活動を振り返り、本時の学習課題をつかむ。	「ハンガリー舞曲第5番」の曲想をとらえ、身体表現をよりよいものにしよう		【関心・意欲・態度】 ・旋律の特徴や、反復、変化などに興味・関心をもち、曲想の変化を感じ取って聴く活動に主体的に取り組もうとしている。 (行動観察)
	○ 4つの旋律の違いを確認する。 ○ 表現するときの注意を確認する。 ・強さ、速さに気をつけて聴く。 ・曲想の変化に気をつけて聴く。	・4つの旋律をそれぞれ保存しておき、旋律の確認ができるようにする。	電子黒板 タブレット端末(指) ・PowerPoint	
展 開	○ 自分の班と他の班の表現した動画の記録を比較したり、他の班のワークシートを見たりして、違いやよいところを見つける。	・自分の班と他の班の記録を共有し比較させることで、身体表現を工夫することができるようにする。 ・発表ノートのワークシートを共有できるようにすることで、一人一人の理解を深める。	電子黒板 タブレット端末(指・児) ・SKYMENU(動画比較) タブレット端末(児) ・SKYMENU(発表ノート)	【鑑賞】 ・旋律の反復や変化、強弱や速度の変化を聴き取り、それらが生み出す曲想の移り変わりを感じ取りながら、楽曲の構造を理解して聴いている。 (行動観察・ワークシート) 【技能】 ・感じ取った音楽の要素を、身体表現に活かすことができている。(行動観察)
	○ 比較したことをもとに、班で身体表現をよりよいものにする。 ○ 班で考えた身体表現を記録し、前時の記録と比較する。	・前時の記録と比較させることで、工夫したところが分かるようにする。	電子黒板 タブレット端末(指・児) ・SKYMENU(動画比較)	
ま と め	○ 本時の学習を振り返り、次時の学習課題をつかむ。			

(3) 板書計画

電子黒板

	投影内容
導 入	旋律の確認
展 開	身体表現の動画比較
まとめ	

㊦「ハンガリー舞曲第5番」の曲想をとらえ
身体表現をよりよいものにしよう

ポイント

- ・強さや速さに気をつけて聴く。
- ・曲想の変化に気をつけて聴く。

なかよし学級 生活単元 学習指導案

授業者 河野悦子 天野健太郎 黄本幸

《本時のICTの活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する ■学習の振り返り ■記録(写真・動画等) ■プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ PowerPoint ○ SKYMENU Class（発表ノート）
ICT活用のポイント	○ 電子黒板での資料提示により、前時の学習や本時の活動の様子を想起できるようにする。 ○ PowerPointを活用して雛形を作っておくことで、写真や商品名、値段、キャッチコピーなどを、どの子どもでも簡単に入れることができるようにする。 ○ グループで作った商品を電子黒板に提示することにより、お互いのがんばりを認め合うことができるようにする。

1 学年・組 なかよし学級 計17名

2 場 所 プレイルーム

3 単 元 名 「買ってワクワク 売ってドキドキ」

4 目 標

○ グループで協力して、お買いものごっこの準備をすることができる。

○ 役割に分かれて、楽しくお買いものごっこに取り組むことができる。

5 指導計画（全 14時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> お買いものごっこをすること、スーパーマーケットへ見学に行くことを知り、スーパーマーケットの動画を見る。 活動の計画を立てる。 3つのたてわりグループでスーパーマーケットのどの売り場を担当するか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> スーパーマーケットの動画を見ることで、スーパーマーケットの商品や、看板、キャッチコピー、レジでの様子などを想起できるようにする。
	2	<ul style="list-style-type: none"> スーパーマーケットへ見学に行く。 	<ul style="list-style-type: none"> カメラ機能を活用することで、どの子どもも商品作りに関われるようにする。
	3	<ul style="list-style-type: none"> 担当の売り場で自分が商品にしたい品物の写真を撮る。 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> スーパーマーケットで撮ってきた写真を見て、どの写真を商品にするかグループで話し合う。 撮ってきた写真を参考にして、キャッチコピーを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真に撮って見ることによって、商品や商品名、値段などの確認が簡単にできるようにする。

2	5 6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力して、撮った写真を PowerPoint に貼り付け、商品名、値段を付ける。 商品のキャッチコピーをグループで相談して決め、書き入れる。 PowerPoint で作った商品をグループごとに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> PowerPoint を活用することで、たくさんの商品を簡単に作れるようにする。 電子黒板にグループで作った商品を提示することで自分や友だちのがんばりを認め合うことができるようにする。
	7 8	<ul style="list-style-type: none"> 役割を分担し、グループで協力して商品を作る。 <ul style="list-style-type: none"> PowerPoint で作った商品を印刷する。 商品をラミネートする。 写真にないもので商品として売りたいものがあるか話し合い、どのように用意するか考えて準備する。 <ul style="list-style-type: none"> 絵にかく 作る お店の看板や飾り付け等を作る。 	
3	9	<ul style="list-style-type: none"> 3つのたてわりグループに分かれて、それぞれができる役割を考え、お買い物のごっこの担当を決める。 自分の担当する役割のグループで集まり、自分の練習する内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 動きやせりふを PowerPoint で確認しながら練習できるようにする。
	10 11	<div> <div> お客側 </div> <div> お客側 <ul style="list-style-type: none"> 商品を選ぶ 商品を出す お金を支払う 商品を受け取る </div> <div> お店側 <ul style="list-style-type: none"> 商品を確認する レジの操作をする お金の受け渡しをする 商品を袋に入れる 商品を渡す </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> 残金を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> せりふを動画で録画しておくことで、何度も自分で確認をして練習できるようにする。 お店側がレジスタディー (iPad アプリ) を活用することで、いくら返金したらよいのかを分かりやすくする。 Excel を活用することで、買ったものの値段を入力するだけで計算できるようにする (必要に応じた活動)。
4	12	<ul style="list-style-type: none"> お買い物のごっこの準備をする。 	
	13	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力してお買い物のごっこをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画や写真で活動の様子を記録し、振り返りができるようにするとともに、3 年生へのビデオメッセージとして活用する。
	14	<ul style="list-style-type: none"> 3年生を招いてお買い物のごっこをする。 	

6 本時の学習

(1) 目 標

- グループで協力して、商品の準備ができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ はじめのあいさつをする。 ○ 前時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動の様子を写した写真を見て振り返る。 ○ 本時のめあてをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動の様子を電子黒板に提示することで、想起しやすくする。 	電子黒板 タブレット端末（指） ・写真ファイル	【関心・意欲・態度】 ・本時の活動への意欲を持つことができる。 （行動観察）
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> グループできょうりょくして、しょうひんのじゅんぴをしよう </div>			
	○ 活動内容を確認する。			
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 商品の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して撮った写真をシートに貼り付ける。 ・商品名、値段を付ける。 ・みんなで考えておいたキャッチコピーの中から、その商品に合うキャッチコピーをグループで相談して選び、貼り付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PowerPointの操作の仕方をリーダーがグループの子どもに教えながら一緒に商品を作っていくことで、上の学年の子どもが下の学年の子どもから認められ自信を持って活動できるようにする。 ・表示が全てひらがなになるDr.シンプラーの機能を活用することで、どの子どもも簡単に操作ができるようにする。 ・雛形を作っておくことで、どの子どもも簡単に操作ができるようにする。 ・PowerPointの別のシートにキャッチコピーの例を用意しておき、それを選んで貼り付けられるようにすることで、どの子どもも簡単に書き込みができるようにする。 	タブレット端末（児） ・PowerPoint	【関心・意欲・態度】 ・友だちと関わりながら取り組んでいる。（行動観察） 【技能・表現】 ・PowerPointを活用して商品作りができる。 （行動観察） 【知識・理解】 ・撮ってきた商品の名前や適切な値段が分かる。 （行動観察） 【技能・表現】 ・写真を見て適切な商品名や値段、キャッチコピー等を考えて表現している。 （発言）
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで作った商品を発表する。 ・自分や友だちのがんばりをチェックカードで確認し発表する。 ○ おわりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで作った商品を電子黒板に提示することにより、お互いのがんばりを認め合うことができるようにする。 ・本時の活動の様子を電子黒板に提示することで想起できるようにする。 	電子黒板 ・SKYMENU タブレット端末（指） ・写真ファイル	【関心・意欲・態度】 ・グループで作った商品を、興味を持って見ている。（行動観察） ・自分や友だちのがんばりを発表したり、友だちの発表を、興味を持って聞いたりしている。 （行動観察）

(3) 板書計画

電子黒板

	投影内容
導入	前時の活動の様子 前時で作った商品
展開	
まとめ	できた商品 本時の活動の様子

グループできょうりょくして、しょうひんのじゅんぴをしょう

しょうひんづくり

しゃしん

な
名まえ

ねだん

キャッチコピー

しんせん
やすいよ
おいしいよ

なかよくする

きまりをまもる

さいごまでがんばる
